

河豚

丈にあまれり、その大きなるものは三尺ほどづ、に切りて舟に積みかへると、中陵翁のものがたりなり。

〔本草和名蟲十六〕鰐胡^{講反}犯^{即怒、怒則腹}和名布久、

〔倭名類聚抄十九〕鰐鮀^{崔禹錫食經云、鰐鮀_{侯怡二音、和名布}}

〔箋注倭名類聚抄八〕鰐魚^{按本草和名不載布久倍之名、按脹訓布久留、是魚怒則腹脹、故名布久、腹脹如匏、故或名布久辨、京及江戸俗譯呼布。具○中}

按鰐鮀見廣雅、說文作鮀、鮀字蓋後人諧聲字、吳都賦云、王鮀侯鮀、王侯相儻、後人从魚耳、故說文無鮀字、然則鰐鮀可單呼鮀魚、不得單呼鰐本草和名無鮀字、非是、證類本草載食療餘鰐鮀魚云、此魚行水之次、或自觸著物、卽自怒氣脹、浮於水上、與崔

氏所說略同、劉達吳都賦注云、鰐鮀魚狀如科斗、大者尺餘、腹下白背上青黑、有黃文、性有毒、雖小獺及大魚不敢啖之、蒸煮餚之肥美、豫章人珍之、

〔類聚名義抄魚〕鰐鮀魚^{フク、一云フクヘ、中音夷、イシブシ、}

〔運步色葉集魚名〕河鲀^{フク}

〔和爾雅六龍魚〕河豚^{フク、又作河鲀、鰐、鮀、魚、噴、魚、吹、吐、魚、氣包、魚並同、}

〔東雅十七鱗介〕鰐鮀^{フグ、倭名鈔に○中}

〔倭訓釋中編二十二〕ふぐ^{和名抄に鰐鮀をよみ、常に河豚をよめり、ふくれたる魚なり、古へはふくべといひ、西國四國にてふくとうともいへり、蝦夷にふつはといふ、皮にてふといふ虫つけり、其形蝶に似て甚強し、ある人疊紙にはさけたりしに、二三十枚を通したる物語あり、凡て魚品に目を動かすは河豚のみ也、毒魚たる知ぬべし、かまへよりとなどの品類あり、まふぐは冬賞す、近るをいひ、フクベとは水上浮び出づる事の匏瓜に似たるを云ひしと見えたり、脹讀てハルといふは張也、俗にフクルといふはもとこれ韓地の方言に出づ、即これ豐の字の韓音と見えたり、即い今も朝鮮の方言これに似たり、豐腹をばハラフクルなどいふ如きも此義也、鰐鮀をフクといひ、匏瓜をフクベといふ、並に同じ、即是河豚魚と見えし者なり、}

〔倭訓釋中編二十二〕ふぐ^{和名抄に鰐鮀をよみ、常に河豚をよめり、ふくれたる魚なり、古へはふくべといひ、西國四國にてふくとうともいへり、蝦夷にふつはといふ、皮にてふといふ虫つけり、其形蝶に似て甚強し、ある人疊紙にはさけたりしに、二三十枚を通したる物語あり、凡て魚品に目を動かすは河豚のみ也、毒魚たる知ぬべし、かまへよりとなどの品類あり、まふぐは冬賞す、近}